

2007 年度 事業報告

1. 概観

2007 年度は、6 月に特定非営利活動法人の登記が終わり、NPO 法人として、さらなる組織強化を進めた。具体的には東京事務所に二人の職員を雇用し、大阪事務所では 12 月までアルバイトを雇用し、会計と広報の強化を図りつつ、カンボジアにおいても所長と駐在スタッフの 2 名体制で事業を進めた。カンボジア事務所所長を兼務している甲斐田は、8 月からバンコクに拠点を移したが、駐在スタッフと、常にメールやチャット（文字ベースの会話）、携帯メールなどで連絡を取り合い、業務指示を行った。カンボジアで活動する他団体の情報を収集し、駐在スタッフの労働条件を整備した。また、事務局としての東京事務所の運営には、メールや事務局会議を通して事務局長の牧田理事があたり、代表理事の甲斐田も東京事務所の職員にメールやチャットで業務指示を行った。理事会は合計 3 回開き、6 月初旬に開設した理事会メーリングリストでは、3 月末までに 799 回のやりとりを通じて、協議を行った。

また、多くの人により親しみをもってもらうために愛称を JICRC から、シーライツ（C-Rights）へ変更した。それに伴い、ホームページをリニューアルし、URL とメールアドレスも変えた。

危機管理対策として、人権相談員を東京、大阪、カンボジアの各事務所に設置し、職員、ボランティアがいつでも相談できる体制をつくり、セクシュアルハラスメント研修も実施し、活動する上での「安全で安心できる活動ガイド」を会員とボランティアに配布した。

子どもの支援事業に関して、カンボジアでは、昨年度に引き続き、子どもの性的搾取、人身売買、児童労働を防止する活動を実施した。特に HCC（Healthcare Center for Children 子どものためのヘルスケアセンター）との協働事業では、スバイリエン州における対象地域を 3 つのコミューン（集合村）から 5 つのコミューンへ、学校数を 10 校から 20 校へと拡大し、新たに 50 名の少女たちに奨学金を支給し、牛は新たに 10 世帯に支給した。

また、今年はインド・プロジェクトに対しても多くの寄付をいただき、CWC（The Concerned for Working Children 働く子どもを支援する会）を通じて児童労働を防ぐための教育活動を支援することができた。

国内では、東京事務所と大阪事務所を中心に、講座や報告会を開催したほか、国際子ども権利センター設立 15 周年記念事業・CSEC 特別事業として、アフエシップのソマリー・ママさんの講演会を東京、大阪、長崎で実施し、成功裡に終えることができた。東京と大阪で開催した子どもの権利条約普及連続講座では、多くの参加者に子どもの権利についての重要性を理解してもらった。

新規事業として、シーライツトレード（子どもの権利を実現するために子どもがつくった製品を日本で販売する事業）を本格的に始め、HCC とアフエシップの少女たちが作った製品の販売や、新しい製品の開発を行った。また、スタディツアーを 2 回（9 月と 3 月）実施し、22 名の参加者を得た。参加者の中からは、シーライツの活動やボランティアに参加する人も出ている。

2. 発展途上地域の子どもの支援事業

1) カンボジア・プロジェクト

以下のプロジェクトへ資金協力及びモニタリングを実施した。

① パートナー団体：子どものためのヘルスケアセンター（HCC）

①-1 スバイリエン州チャントリア郡における子どもの人身売買・児童労働防止ネットワークづくりと収入向上	
期間	2007年9月～2008年3月（6月まで実施予定。その後、7月からさらに継続）
目標	児童労働と人身売買のリスクが高いスバイリエン州の地域において人身売買をなくす
目的	学校ベースの人身売買防止ネットワーク(SBPN：School Based Prevention Network)を組織し、子どもたち自身の手で子どもの権利、人身売買の危険について意識啓発を行うと同時に、リスクの高い子どもたちを収入向上プログラムと奨学金プログラムによって、人身売買の危険から守る。
内容	新たに郡内10の小学校、中学校に10名からなるSBPNを組織し、子どもの権利や人身売買の手口、都会へ出稼ぎに行くことの危険性、児童労働、ジェンダー、DVについての研修を実施。 研修を受けた子どもたちが、それぞれの学校や村、家庭で啓発活動を実施。 収入向上プログラム（牛銀行、家庭菜園、貯蓄組合）の実施で、出稼ぎのリスクを軽減。 奨学金支給プログラム 50名の子どもに文房具セット・スクールバッグ、制服を支給。2006年度の奨学金受給の子どものうち成績のいい20名の子どもに米を支給。
※ 国際ボランティア貯金、東京都、全労済、連合、サッポロビール労働組合、真如苑、エアラインズクラブから助成金を受けたほか、多くの個人の方々からのご寄付により、この事業を実施することができた。 経費内訳：人件費など 3735ドル、ワークショップ経費 2768ドル、収入向上プログラム（牛や種子購入費など）3559ドル、奨学金（文房具と米）1396ドル、モニタリング344ドル、メンバー用Tシャツ 347ドルなど。	

①-2 プレイベン州コムチャイミア郡における人身売買防止プロジェクト	
期間	2007年4月から12月
目標	人身売買のリスクが高いプレイベン州コムチャイミア郡の地域において人身売買をなくす
内容	2004～05年に実施した子どもの人身売買防止ネットワークづくりと収入向上活動について、うまく継続されるようにワークショップやミーティングなどを通じてフォローアップを行った。2007年6月に甲斐田と近藤でモニタリングを実施し、SBPNの活動が継続されていること、危険な子どもの出稼ぎがなく、人身売買や児童労働が防止されていることを確認した。
※ 真如苑や個人の方々からのカンボジア・プロジェクトへのご寄付により実施することができた。 経費内訳：ワークショップ経費、ミーティング経費、人件費、交通費など1478ドル	

② パートナー団体：フレンズ・インターナショナル

チャイルドセーフプログラム ホットライン	
期間	2007年11月～2008年2月
目的	路上で暮らしたり働いたりする子どもたち（ストリートチルドレン）を性的虐待・性的搾取、暴力、麻薬などさまざまな危険や権利侵害から保護すること。
目標	子どもが暴力を受けていたり、危険にさらされているような状況を見つけた場合、チャイルドセーフのメンバーや地域の人々が夜や週末でも24時間ホットラインに電話をかけられるようにすること。連携体制を強めること。
内容	2007年7月に始まったホットライン事業は10月まで月曜日から金曜日までしか運営されていなかった。この事業を、夜と週末にも運営することによって、24時間子どもを保護できる体制にした。開始以来、08年2月までに合計で284の電話相談を受け、ホットラインが周知されるにつれ利用する人も増えている。電話の半分近くは、ストリートチルドレンとそ

	の家族が助けを求めているもので、病気や事故などで医療処置が必要なときには病院に連れて行った。「チャイルドセーフ」チームや「安全な移住」チームからのものも多く、8ヶ月の間に64の移住のケースがあった。この事業によって、地方から出稼ぎにきたこうした子どもや若者が性的搾取などの被害に遭うのを未然に防ぐことができた。
	専門家による緊急対応について、週末の経費1時間あたり8ドル、夜間の経費1時間あたり6ドル 合計996ドル支援した。

③ パートナー団体：アフエシップ (AFESIP)

幼い子どもを持つ人身売買・性的搾取の被害者への保育サービス事業	
期間	2007年4月～2008年3月（2005年9月から継続）
目標	性的搾取・性被害を受けた少女・女性の自立
目的	アフエシップの運営する職業訓練所を兼ねたシェルター内で、保育サービスを実施し、幼い子どもがいる少女・女性が安心して職業訓練を受けられ、かつ子どもたちが健やかに育つ環境を整える。
内容	<p>幼い子どもがいる女性もトムディセンターで職業訓練をうけられるように05年9月から実施している保育サービスを継続した。</p> <p>その結果、女性たちは集中して職業訓練を受けることができるようになった。この保育サービスの結果、7人の女性が洋裁の職業訓練を受け、生後1ヶ月から2歳までの7人の子ども（うち6人は女の子）が衛生的で健全な環境の中で、栄養のある食事をとりながら毎日規則正しい生活を送ることができるようになり、健やかに発達することができた。女性たちは昼休みには子どもと一緒に食事をとることができ、夜は一緒に寝ることができるため、精神的な安定も得ることができた。</p> <p>保育ケアを受けた子どもたちは、最初は顔色は悪く、やせていて、それまでの環境から言葉遣いが悪く、食事のマナーもできていなかった。遊ぶ際もおもちゃを独り占めして、自分だけで遊ぼうとしていた。しかし、ここでよい幼児教育を受け、幸せな気分を味わうことができるようになるにつれ、子どもたちの態度は変わり、相手を思いやることができるようになった。礼儀正しく挨拶をしたり、感謝の気持ちを表したりすることができるようになった。これらの変化を見て、センターで暮らすほかの女性たちも保育士の保育のやり方から多くを学んでいる。</p>
<p>てのひら～人身売買に立ち向かう会、東京都よりこの事業への助成をいただいた。</p> <p>※ 経費内訳：保育士の人件費月150ドル（08年1月からは160ドル）、子どもたちへの食費、衛生用品、医療費など合計2299ドル、飲料水：483ドル。</p> <p>※ モニタリング：2008年3月アフエシップより報告書の提出あり。</p>	

④ パートナー団体：子ども権利基金(CRF)

子どもの性的搾取を防止するための学校における子どもの権利教育の推進を評価するワークショップ	
期間	2008年3月13～14日
目標	3つの州の学校で子どもの権利教育を進める上での成果と課題を話し合い、将来に向けて計画を立てる
目的と内容	<p>過去3年間にわたってカンボジアのカンダール州とコンポンチャム州、および、シエムリアップ州の学校では、教育局の職員が作業部会を組織し、子どもの権利教育事業を実施してきた。その中には、子どもの性的搾取・人身売買を防止することも含まれる。今後この事業を効果的に実施できるように過去3年間の事業を振り返り、成果と課題を評価するためのワークショップをシアヌークビルで3月13日、14日の二日間にわたって実施した。それぞれの州から作業部会のリーダーをつとめる州教育事務所の次長などが参加し、教員養成校の校長先生、カンボジア事務所スタッフの近藤も含め合計17名が参加した。</p> <p>成果はいろいろ挙げられ、課題としては、子どもの性的搾取を防止する子どもの権利教育を学校でさらに進めていくために、子どもクラブの子どもたちが主体となって子どもの権利を普及していけるようにすることが重要とされた。</p>
<p>大阪聖パウロ教会と東京都の助成によってこの事業が実施できた。</p> <p>経費内訳：CRFスタッフ人件費1200ドル、ワークショップ開催経費1,851ドル</p>	

また、2007 年度は職員や理事がカンボジアに出張に行ったことにより、今後の支援の展望を検討することができた。

東京事務所職員 後藤恵香	期間 07年9月19日～29日 内容 スタディーツアーに同行
東京事務所職員 加山美津子	期間 07年10月21日～27日 内容 スパイリエンプロジェクトの収入向上プログラムモニタリングおよび指導
牧田東一理事	期間 08年3月20日～24日 内容 スパイリエンのプロジェクトの視察
内田直仁理事	期間 08年3月27日～4月1日 内容 スパイリエンプロジェクトの収入向上プログラムの今後の可能性検討。ローカル NGO との協働の可能性検討。

2) インド・プロジェクト

① パートナー団体：バタフライズ

リジリエンスセンター建設支援	
期間	年間を通じて
内容	リジリエンスセンターの土地購入や建設に関する情報を収集した。デリー市の新しい法律によって、NGO の使用が認められる土地面積に上限がつけられ、バタフライズが必要としている敷地面積の土地購入ができなかった。また、土地購入にあたって援助を申し出ている米国の団体の認証がおりなかったことも土地購入が遅れた原因だった。これらの理由で土地購入の目処がたたなかったため、支援金の送金を見合わせた。

② パートナー団体：CWC

ナマブミ（寮つきの職業訓練センター）で子どもたちが、ノンフォーマル教育と職業訓練を受けることができるようにする	
期間	2008 年度に使用分の支援金を 2008 年 3 月末に送金
目的と内容	100 人の子どもたちが学ぶことのできるナマブミでは、働く子どもたちがよりよい教育を受け、自立できるようになることを目指している。職業訓練では、農村の生活にあった適正技術の使い方を学び、子どもたち自身がよりよい社会づくりに参加できるようにリーダーシップも養成している。教育は、通常の学校教育の 10 年生レベルまでを目指すだけでなく、モンテソーリ教育の理念に基づいて、子どもたちのニーズを反映したものとなっている。
2007 年度に、故・小坂愛さんのご両親と個人の方々からのご寄付により、計 676,064 円をナマブミの子どもたちの教育活動に支援した。	

3) シーライツトレード・プロジェクト

①販売

2007 年度売上実績 20 万円

主な販売報告

日付	内容	場所	売上
9/9(日)	NGO まつり in 上野 クロマーの使い方ミニ講座も 2 回開催。合わせて 20 人くらいの方に参加してもらい、クロマーに興味を持ってもらう良い機会になった。	丸幸ビル	16,400 円
10/6,7(土日)	グローバルフェスタ 9 月と同様にクロマーの使い方ミニ講座を 3 回開催。合わせて 30 人くらいの方に参加してもらい、クロマーに興味を持ってもらう良い機会になった。	日比谷公園	82,400 円
11/3(土)	玉川学園祭、ポンナレット		28,200 円
1 月	ソマリー・mamさん講演会	東京・大阪・佐世保	42,250 円

※その他、子どもの権利普及連続講座やイベントでも販売。

②現地調査・仕入報告

第 1 回

期間	07 年 8 月 26 日～29 日
従事者	江波戸玲子会員
訪問先	カンボジア プノンペン、
目標	10 万円分仕入れ
目的	07 年度後半で販売する商品の仕入れ、HCC、アフエシエツプ視察
内容	会員の小味さんがカンボジアを案内してくださる。HCC・アフエシエツプは、まだ製品の品質が低いことがわかる。商品の品質をみて、現状の状態のまま 2 団体からの仕入れのみで日本にて販売を行うのは難しいこと理解。他の団体やグループなども視察し、日本で人気でそうな良質のクロマーを、低価格で仕入れることが可能なことがわかる。事業収益を上げ 2 団体に指導の手を入れるために、事業を軌道にのせるため他団体からの仕入れを検討。
渡航費	江波戸会員個人が負担

第 2 回

期間	08 年 3 月 22 日～25 日
従事者	江波戸玲子会員
訪問先	カンボジア プノンペン、
目標	10 万円分仕入れ
目的	08 年度 8 月まで販売する商品の仕入れ、HCC、アフエシエツプ視察
内容	前回の仕入れた商品の売れ行きから、今後売れそうな商品の仕入れ。HCC アフエシエツプの技術向上を確認。縫製や織物の販売への高い意欲を確認でき、今後の支援を更に検討した。 ※近藤が US265 ドル分仕入れを担当。
渡航費	2007 年度の純利益を使用+江波戸会員個人負担

3. 発展途上地域の子どもの権利状況に関する調査・研究・発信事業及び開発教育事業

1) スタディツアー

第1回目

期間	9月13日～22日（8泊10日）
参加人数	8名
訪問地	カンボジア（プノンペン、バベット、シムリアップ）
内容	4つの現地パートナーNGOの訪問、プロジェクトの視察、観光

- ・9/5(水)、10(月)に事前研修会を開催した。
- ・帰国後、参加者の感想を集めたスタディツアー報告書を作成した。
- ・スタディツアー報告会を12/15(土)に開催した。

第2回目

期間	3月20日～27日（6泊8日）
参加人数	14名
訪問地	カンボジア（プノンペン、バベット、シムリアップ）
内容	3つの現地パートナーNGOの訪問、プロジェクトの視察、観光

- ・2/22(金)に事前研修会を開催した。
- ・帰国後、スタディツアー報告書を作成。
- ・スタディツアー報告会を6/14(土)に開催。

2) 学習会・講演会

日付	名称	参加人数
5/19(土)	「ジェンダーと世界の子どもの権利 ～生活の場で・教育の場で～」	10名
	会場：大阪NPOプラザ（福島区吉野） 講師：三輪敦子さん	
6/9(土)	「児童労働セミナーin大阪」	31名
	会場：pia NPO（港区築港） 報告者：岩附由香会員、藤井、中島早苗会員 共催：ACE、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	
6/30(土)	「カンボジアにおける子どもの権利の授業を体験してみよう！」ワークショップ	39名
	会場：JICA 地球ひろば（東京・広尾） 講師：甲斐田	
7/1(日)	「地域や学校で支える子どもの人権 ～カンボジアでの人身売買との闘い～」(子どもの権利条約連続講座 プレ講演会)	41名
	会場：大阪聖パウロ教会（北区茶屋町） 講師：甲斐田 共催：ヒューライツ大阪 協賛：人権と人間の安全保障研究会	
9/23(日)	「エイズとともに生きる子どもへのエンパワーメント ～カンボジアにおけるエイズ問題のジェンダー化現象～」	13名
	会場：ドーンセンター（大阪・中央区大手前） 講師：中川香須美会員 共催：カンボジアスタディツアー研究会	
9/27(木)	「児童労働撤廃における教育の役割」講演会	24名
	会場：早稲田大学(東京・早稲田) 講師：平野将人さん(元カンボジア事務所職員) 共催：早稲田大学アジア太平洋研究センター「開発と人権」研究部会	
10/8(祝)	「ドキュメンタリー『歴史の旅』働く子どもの歴史を探る ～上映会」	8名
	会場：大阪NPOプラザ（福島区吉野）	

12/16(日)	「世界で買われる子どもたち～性的搾取をなくすために日本の私たちにできること～」スタディツアー報告会と講演会	10名
会場：大阪 NPO プラザ（福島区吉野） 報告者：07 年 9 月スタディツアー参加者 講師：甲斐田		
12/22(土)	「カンボジアにおける教科書のジェンダー問題と子どもの権利」学習会	27名
会場：大阪聖パウロ教会（北区茶屋町） 講師：中川香須美会員		

3) 出版

関西の翻訳チームが翻訳したヒューマン・ライツ・ウォッチ著の債務児童労働についての本“SMALL CHANGE: Bonded Child Labor in India's Silk Industry”の 2008 年度の日本語出版を目指して、監訳を会員の久木田由貴子さん、金谷美和さんに依頼し、作業を進めていただいた。出版社と出版の可能性についての協議、販売見込みの検討を行い、出版計画を進めた。

4) 会報

プロジェクトや活動の状況を報告する目的で「子夢子明（こむこめ）」第 58、59、60、61 号を発行し、会員、寄付者、関係者などに配布した。

5) インターネットを通じた情報発信

カンボジアだより、東京事務所だより、ホームページを通じて、カンボジアの子どもたちの状況や活動内容について情報発信した。特にカンボジアだよりは、中川香須美会員の協力によりほぼ毎月更新することができた。

4. 国連子どもの権利条約の普及事業、及び子どもの権利促進事業

1) 子どもの権利条約普及連続講座

① 東京開催

タイトル	連続講座「世界の子どもたちに子どもの権利条約を ライツ・ベース・アプローチ」
期間	2007年7月21日(土)～12月14日(金) 全6回
会場	明治学院大学
協力	真如苑、明治学院大学国際平和研究所
参加者数	延べ116名(連続受講8名)
新規会員	4名

	日時	タイトル・講師	参加人数
第1回	7月21日(土) 午後2時-4時半	国連・子どもの権利とライツ・ベース・アプローチ 講師：甲斐田	25名
第2回	8月18日(土) 午後2時-4時半	開発と子どもの権利ベースアプローチ(RBA)の重要性 講師：勝間	19名
第3回	9月15日(土) 午後2時-4時半	子どもの性的搾取をなくしたい！ー表現アートが訴える 子どもの権利 講師：森田明彦さん(子どもの権利活動家、元日本ユニセフ 協会広報室長)、渡邊	19名
第4回	10月13日(土) 午後7時-9時半	内なる国際化、国際協力と子どもの権利条約 講師：荒牧	9名
第5回	11月23日(祝・金) 午後2時-4時半	開発教育と子どもの権利 講師：風巻浩さん(かながわ開発教育センター理事・高校教 員)	17名
第6回	12月14日(金) 午後6時半-9時	カンボジアの実践から学ぶ子どもの権利教育 ～子ども 参加とエンパワーメント 講師：奥地圭子さん(東京シューレ理事長)、甲斐田	27名

〔受講者の感想〕「子どもの権利条約の『意味・意義』が良くわかった」、「条約を知ることの大切さを感じた」、「権利ベースアプローチ(RBA)という概念について知ることができた」、「世界の中で RBA がどう捉えられているかがわかって良かった」、などの感想が寄せられ、RBAに関心を持ってもらうことができた。

② 大阪開催

タイトル	「子どもの権利条約」普及連続講座(基礎編) in 大阪
期間	2007年7月28日(土)～9月1日(土) 全10回
会場	大阪 NPO プラザ
協力	真如苑
後援	(特活)関西 NGO 協議会、(特活)関西国際交流団体協議会、(社福)大阪市社会福祉協議会、 (社福)大阪ボランティア協会
参加者数	延べ135名(連続受講7名)
新規会員	3名

	日時	タイトル・講師	参加人数
第1回	7/28 (土) 午前9時半-12時半	子どもの権利条約って？ 講師：藤井	12名
第2回	7/28 (土) 午後1時半-4時半	カンボジアの NGO から学ぶ子どもの権利教育とライ ツ・ベース・アプローチ (ワークショップ又はグループ ワーク) 講師：甲斐田	14名
第3回	8/4 (土)	子どもの声を聴く (実習)	9名

	午前 9 時半-12 時	講師：堀正嗣さん（熊本学園大）	
第 4 回	8/11（土） 午前 9 時半-12 時	子どもの権利は赤ちゃんから 講師：田中文字子さん（子ども情報研究センター）	10 名
第 5 回	8/18（土） 午前 9 時半-12 時半	子どもの支援エンパワーメントⅠ（社会的文化的につくられた性差、在日外国人の子ども権利、障がい児の権利） 講師：金香百合さん（HEAL）	15 名
第 6 回	8/18（土） 午後 1 時半-4 時半	子どもの支援エンパワーメントⅡ 講師：金香百合さん（HEAL）	14 名
第 7 回	8/19（日） 午後 1 時半-4 時半	子どもの権利条約によってエンパワーされた子どもたち（インドフィリピンの事例） 講師：中島早苗会員（フリー・ザ・チルドレン・ジャパンと子どもメンバー）	23 名
第 8 回	8/25（土） 午後 1 時半-4 時半	子どもの権利条約を活かす・子どもの参加とその支援を中心に 講師：荒牧	11 名
第 9 回	9/1（土） 午前 9 時半-12 時半	子どもの安全のために ～エンパワーメントを通じて公正とサバイバルを～ 講師：森実さん（大阪教育大）	14 名
第 10 回	9/1（土） 午後 1 時半-4 時半	人権の根付くクラス造り（いじめや暴力を生まないために） 講師：森利伸さん（名古屋市立二城小学校）	13 名

連続受講者は7名と少なかったが、個別受講者を加えると平均13～14人。受講者は、教員、教育委員会、学生、会社員、CAPプログラムの専門家、子育て支援活動家など。それぞれに子どもに関わる方々なので、人権に対する意識は高く、子どもの権利に関してもこちらから伝えようとする内容をよく理解された。

[受講者の感想]「子どもの権利は使ってこそ意味がある。そのためには子どももおとなも力をつける必要がある。子どもに関わるあらゆる人に子どもの権利を考えてもらいたいと感じた。」「カンボジアでのワークの中身をもう少し知りたかった。」「子どもの声を『聴く』ことのできるおとなをまず増やさないとけない。特に教師、親にこの『聴く』力を求めたい。」

5. 国際・国内団体とのネットワーク事業

1) 会員の継続

- ・(特活)国際協力 NGO センター (JANIC) の正会員を継続
- ・児童労働ネットワークの団体正会員を継続
- ・(特活)関西国際交流団体協議会の会員を継続
- ・(社福)大阪ボランティア協会 NPO 推進センターのパートナー登録を継続
- ・カンボジア市民フォーラムの会員を継続
- ・在カンボジア NGO 日本人ネットワーク (JNNC) の会員を継続
- ・人身売買禁止ネットワーク (JNATIP) の会員を継続

2) 共同イベントの参加

日付	名称	会場
9/9(日)	NGO まつり in 上野	丸幸ビル
	シーライツトレード製品と書籍の販売、活動パネルの展示のほか、クロマーの使い方ミニ講座を開き、たくさんの方にクロマーを手にとってもらった。	
10/6-7(土日)	グローバルフェスタ	日比谷公園
	たくさんのお客様ボランティアさんに手伝っていただき、シーライツトレード製品と書籍の販売、活動パネルの展示をした。また、クロマーの使い方ミニ講座を開き、たくさんの方にクロマーを知ってもらうことができた。	
2/2-3(土日)	ワン・ワールド・フェスティバル	大阪国際交流センター (天王寺区上本町)
	国際交流センターの1階吹き抜けのフロアと車寄せ、2階を使って関西一円のNPO、NGO 団体が集まる国際協力のお祭り。それぞれの活動を紹介する中で、シーライツもパネル展示、カンボジアグッズ、書籍の展示販売、クイズラリーに参加。「カンボジアにはお金を使わない銀行があります。それはなんという銀行でしょう」答え：「牛銀行」。多くの子どもとおとなが来訪、2日間で400枚のパンフレットを配り交流した。	

3) 政策提言

- ・セミナーやカンボジアの ENJJ 連携促進会議などの機会を利用して、カンボジアの法執行力の重要性や子どもの権利基盤型アプローチの重要性を訴えた。
- ・G8 サミット NGO フォーラム人権・平和ユニットに賛同
- ・「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンに賛同

4) その他

- ・CSR 推進 NGO ネットワークに参加
- ・11月、人身売買禁止ネットワーク (JNATIP) のメンバーが参加したバンコクの人身売買に関する国際会議に参加。
- ・2月、人身売買禁止ネットワーク (JNATIP) のメンバーがアフエシップ・タイを訪問しインタビューするのに同行。

6. その他、この団体の目的を達成するために必要な事業

1) 理事会の運営

理事会メーリングリストで月平均 80 通のメールをやり取りし、3 度の理事会を開いた。

6/30(土)	第 1 回理事会 主な議題：事務局長、事務所長の任命、2007 年度執行予算、広報、ミッションの目標
10/20(土)	第 2 回理事会 主な議題：ミッションの目標、補正予算、ソマリー・ママさん招聘事業
2/21(木)	第 3 回理事会 主な議題：07 年度決算見込み、11～2 月の事業報告、08 年度事業計画

2) 各事務所の組織運営

東京事務所	2007 年 4 月にスタッフが交代し、2 名のスタッフが週 5 日勤務で事務作業（会員管理、会計、問合せ対応、助成金申請、総務労務、広報等）を分担。また、CSEC 事業、シーライトトレード事業のサポートを行った。 開所：平日 9 時半～17 時半
大阪事務所	大阪事務所長とアルバイト（月 2 回）、ボランティアで仕事を分担した。 ・「子どもの権利条約」普及活動・連続講座等をボランティア（約 7 人）で、役割分担して実施。 ・翻訳ボランティアに英語の論文・資料の翻訳をしてもらった。 開所：毎週水曜日 13 時～17 時、日曜日
カンボジア事務所	所長と駐在スタッフの 2 名体制でカンボジア・プロジェクト事業を進めた。 開所：平日 8 時半～12 時、14 時～17 時半

3) 広報

① 愛称の募集、決定

広報戦略の一環として、組織の愛称を HP 等で募集し、C-Rights（シーライツ）に決定した。以降、HP や印刷物等で C-Rights の愛称の普及を行っている。

② HP をリニューアル

広報戦略の一環として、わかりやすく魅力的な HP が必要とのことから、HP をリニューアルした。

10 月	HP のリニューアル準備を開始
12 月	JICA の NGO 組織強化のためのアドバイザー派遣へ申請、HP 作成のアドバイザーとして名原真人さんを派遣してもらう。
2 月	名原真人さんからアドバイスを得て、リニューアル作業を開始。
3 月	新しい HP へ移行。

※しばらくは旧 HP も公開する。

③ 入会パンフレットを改訂

入会パンフレットの内容が古かったため、永野恵理会員に新しい入会パンフレットのデザインを依頼し、12 月中旬に更新した。新しい試みとして、郵便払込票をつけた。

④ ソマリー・ママさん招聘事業に関連する広報活動

ソマリーさんの招聘と一連の講演にあたり、マスコミ等への働きかけを行い、以下のような報道を得ることができた。

2007/12/15(土)	まちづくり新聞 (新建新聞社)	7 面「イベント&トピックス」
2008/1/19(土)	読売新聞 長崎版	31 面(地域)
1/22(火)	西日本新聞	地域
1/25(金)	読売新聞 東京版	32 面(地域)
1/29(火)	TBS NEWS23	特集
1/31(木)	毎日新聞 長崎版	地域
2/2(土)	毎日新聞 西部夕刊	「憂楽帳」
2/9(土)	朝日新聞 夕刊	2 面「びーぶる」
2/15(金)	インターネット新聞 (JanJan)	暮らし
2/20(水)	社会新報 (社民党)	6 面
3/5(水)	ふえみん (婦人民主クラブ)	3 面

⑤真如苑にてパネル展

東京都立川市泉町にある真如苑応現院・観音堂ギャラリーで、真如苑のご好意により 3 月 13 日から 5 月末まで活動紹介パネル展を開催。東京事務所スタッフが 2 日間出向き、訪れた方々に説明をした。

4) 資金調達

①助成金

[採択]

助成団体名	金額	助成内容
全労済より助成金	150 万円	カンボジア事業、 管理費指定 (2 年分)
国際ボランティア貯金より配分	121 万 2 千円	カンボジア事業
連合・愛のキャンパより助成	25 万円	カンボジア事業
JICS(日本国際協力システム)より助成	100 万円	人件費と PC 購入経費
真如苑より寄付	250 万円	事務局運営費、子どもの権利条約普及連続講座
都子基金より寄付	20 万円	インド事業
東京都市民協力助成事業より助成	109 万 5634 円 (交付は 08 年 5 月)	カンボジア事業
国際ボランティア貯金平成 19 年度下期配分決定	(交付は 08 年)	カンボジア事業・HCC
NGO 強化のためのアドバイザー派遣 (JICA)		WEB 関連

[不採択]

助成団体名	助成内容
東京マイコープ 2007 年度 市民活動助成基金	シーライツトレード事業
草の根市民基金・ぐらん「アジア草の根助成」	シーライツトレード事業
外務省平成 20 年度 NGO 専門調査員受入れ団体	その他の事業

②会員

2007 年度会員総数 個人会員 185 名+団体会員 21 口

内訳

正会員合計	一般正会員	学生正会員	子ども正会員	
74	59	3	12	
賛助会員合計	一般賛助会員	学生賛助会員	子ども賛助会員	団体賛助会員
113	97	12	2	21 口

※株式会社アーバン・コーポレーション入会、団体賛助 20 口（60 万円）

③その他

- ・会員さんへボーナスカンパを呼び掛け、8 万 8 千円集まった。
- ・ソマリー・ママさん招聘事業賛同金を呼び掛け、11 万 5 千円集まった。
- ・資金調達の内部勉強会の開催（NPO 法人ハンガー・フリー・ワールドの事務局長渡邊さん）
- ・会員さんへ書き損じはがき、商品券の寄付を呼び掛け、10 名より送付があった。

5) 危機管理

- ・「安全で安心できる活動ガイド」の配布
- ・ボランティア保険に加入
- ・セクシャルハラスメントを含む人権相談専用メールアドレスの設置
- ・セクシャルハラスメント研修会の開催

7. 特別事業 子どもの性的搾取に関する啓発活動

10月、ボランティアによる CSEC チームを結成し、2008年11月にブラジルで開催される第3回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議に向けて活動を開始。ソマリー・マムさんを招聘しての講演会など、下記イベントのほか、計7回のミーティングを行い、チームの方向性などについて話し合った。

日付	内容	参加人数
12/15(土)	「世界で買われる子どもたち」講演会&スタディツアー報告会 会場：クワトロエスプラス(東京・新宿御苑) 講師：森田明彦さん、甲斐田 報告者：07年9月スタディツアー参加者	32名
1/24(木)	ソマリー・マムさん講演会 会場：桜美林大学(東京・町田) 講演者：ソマリー・マムさん、甲斐田 共催：桜美林大学リベラルアーツ学群国際協力専攻、早稲田大学グローバル COE プログラム	約 200名
1/25(金)	「子ども買春廃絶に向けて」国際シンポジウム 会場：早稲田大学(東京・早稲田) 報告者：ソマリー・マムさん、大谷美紀子さん、横田洋三さん、木村徹也さん、早水研さん、甲斐田、勝間 共催：早稲田大学グローバル COE プログラム	209名
1/26(土)	「子ども買春廃絶に向けて」～ソマリー・マム来日講演～ 会場：明治学院大学(東京・白金) 講演者：ソマリー・マムさん、甲斐田 共催：明治学院大学国際平和研究所、早稲田大学グローバル COE プログラム 協力：人身売買禁止ネットワーク、アジア女性資料センター	64名
1/27(日)	「ソマリー・マム氏講演会」 会場：大阪大谷大学(富田林) 講演者：ソマリー・マムさん、甲斐田 共催：ソマリー・マム氏講演会実行委員会 ((特活)とんだばやし国際交流協会、大阪大谷大学人権委員会、(特活)国際子ども権利センター)、早稲田大学グローバル COE プログラム	約 100名
1/28(月)	「ソマリー・マムさん講演会」 会場：アルカス佐世保 講演者：ソマリー・マムさん、甲斐田 共催：独立行政法人国際協力機構九州国際センター(JICA 九州)、長崎県青年海外協力会、早稲田大学グローバル COE プログラム、ワールドスタディズセンター	約 150名
3/10(月)	都立杉並総合高校にて国際理解の授業を行う 講師：望月裕太会員、渡辺、後藤 協力：木村先生、北鹿渡先生	生徒 7名